

高校公民プリント（過去問類似）

源流思想と宗教 No.9

名前

得点

/10

問1 孔子が説いた、自らの私欲に打ち勝って、社会規範である「礼」に立ち返ることを意味する、内面的な人間愛である「仁」を実践するためのあり方を表した四字熟語は何か。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. 知行合一 2. 克己復礼 3. 仁義礼智 4. 格物致知

問2 感覚が捉える変化や多様性を否定し、論理的思考に基づいて「在るものは在り、在らぬものは在らぬ」と説いた。世界における変化や生成は見かけだけの現象にすぎず、真に存在するものは唯一不変であり、生成も消滅もしないと主張した、南イタリアのエリア出身の古代ギリシア哲学者は誰か。 (2017年 全国公立入試 類似)

1. エンペドクレス 2. デモクリトス 3. パルメニデス 4. ヘラクレイトス

問3 仏教において、人間の生存を構成する物質的・精神的な五つの要素が執着を伴って盛んに活動すること、すなわち、人間の身体と心が活動し続けていること自体が苦の源泉であることを表す、四苦八苦（後者の四苦）の一つとして適切なものは何か。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. 五蘊盛苦 2. 怨憎会苦 3. 生老病死 4. 愛別離苦

問4 仏教において、自らが行った善悪の行為（業・宿業）が、それに応じた結果（報い）を自らにもたらすという、原因と結果の法則を意味する思想を何というか。 (2012年 全国公立入試 類似)

1. 因果応報 2. 輪廻転生 3. 諸行無常 4. 諸法無我

問5 中国の春秋戦国時代において、家族や身内を優先する儒教の愛を、他者を差別する偏った愛（別愛）であると批判し、自他を区別することなく、すべての人々を等しく愛し、互いに利益をもたらさ合うべきであると主張した思想家が唱えた、無差別の愛を指す思想を何というか。 (2024年 全国公立入試 類似)

1. 無為 2. 王道 3. 非攻 4. 兼愛

問6 イスラーム教において、現世は来世への準備期間とされ、人間は死後に神の前で自らの生前の行いについて裁きを受けるとされる。この、世界の終末に神が全人類を復活させて裁き、天国か地獄への行き先を決定するという教理上の出来事を何というか。 (2019年 全国公立入試 類似)

1. 最後の審判 2. 死者の復活 3. 救世主降臨 4. 神の国到来

問7 「人間は本性上、ボリス的動物である」と述べた古代ギリシアの哲学者は、共同体の秩序を維持するための徳として正義を重視した。彼は正義を分類し、各人の功績に応じて名誉や財貨を配分する正義や、裁判などを通じて不均衡を是正し公平にする正義などを唱えたが、この哲学者は誰か。 (2009年 全国公立入試 類似)

1. アリストテレス 2. エンペドクレス 3. アナクサゴラス 4. ヘラクレイトス

問8 儒教の祖は、他者への思いやりである内面的な徳と、社会的な規範である外的な行動様式を深く結び付けた。自らの私欲に打ち勝ち、この社会的な規範に従うことを何と呼ぶか。 (2024年 全国公立入試 類似)

1. 格物致知 2. 仁義礼智 3. 克己復礼 4. 修己治人

問9 古代キリスト教の教父アウグスティヌスが著した自伝的著作で、青年期の放蕩やマニ教への傾倒、新プラトン主義との出会いを経て、神の恩寵によりキリスト教の信仰に目覚めるまでの魂の遍歴と神への感謝を綴った作品の名称を答えよ。 (2012年 全国公立入試 類似)

1. 弁明 2. 神学 3. 独白 4. 告白

問10 新プラトン主義の哲学者プロティノスや使徒パウロの影響を受け、キリスト教神学を大成した古代の思想家がいる。彼は、地上の芸術や自然などの「作られた美」はすべて美の源泉である神に由来するが、人間がその被造物の美そのものに執着することは、真の目的である神への愛から遠ざかる罠になり得ると警告した。この思想家は誰か。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. ヒエロニムス 2. アンブロシウス 3. アウグスティヌス 4. テルトゥリアヌス

答え合わせ・解説 No.9

問1	答え 2 克己復礼	自分のわがままな欲望に打ち勝ち、社会的な規範や儀礼にかなった行動をとることを「克己復礼」と呼ぶ。これは、内面的な愛である「仁」を社会的に実践するための具体的な方法として重視された。
問2	答え 3 パルメニデス	エレア派の祖とされるこの哲学者は、感覚が捉える変化や多様性を否定し、理性（ロゴス）による論理的思考を重視した。彼は「在るものは在り、在らぬものは在らぬ」という命題から出発し、真に存在するものは不生不滅・唯一不動のものであると主張した。
問3	答え 1 五蘊盛苦	仏教では、根本的な4つの苦しみ（生・老・病・死）に、さらに4つの苦しみを加えた「八苦」を説く。人間の身体と心を構成する物質的・精神的な5つの要素（五蘊）が活発に活動し、それに対する執着が生じること自体が苦の源泉であるとする苦を五蘊盛苦と呼ぶ。これに対し、愛するものと別れる苦しきは愛別離苦、怨み憎む者と出会う苦しきは怨憎会苦、求めるものが得られない苦しきは求不得苦と呼ばれる。
問4	答え 1 因果応報	仏教では、すべての現象には原因と結果の関係（因縁）があるとされる。特に個人の行為（業・カルマ）がもたらす運命的な結果について、善い行為には善い結果（善因善果）、悪い行為には悪い結果（悪因悪果）がもたらされるという考え方を指す。これは、自己の行為に対する道徳的責任を自覚させる思想でもある。
問5	答え 4 兼愛	儒教が説く家族愛的な「仁」は、身内を優先して他者を差別する偏った愛（別愛）であると批判された。これに対し、自他を区別せずにすべての人々を等しく愛する「兼愛」が唱えられ、社会の利害対立を解消して平和をもたらそうとした。
問6	答え 1 最後の審判	イスラーム教やキリスト教などの一神教において、世界の終末に神がすべての死者を復活させ、生前の善悪の行いに基づいて永遠の救済（天国）か破滅（地獄）かを決定する裁きを行うという信仰は、共通して重要な位置を占めている。イスラーム教徒はこの裁きにおいて天国へ入ることを目指し、現世で神の法を遵守して生きる。
問7	答え 1 アリストテレス	人間を社会（ポリス）の中で生きる存在として捉え、友愛（フィリア）や正義を重視した万学の祖である。彼は正義の分類において、能力に応じた配分を行う「配分的正義」と、損得の不均衡を正す「調整的正義」を提示し、これらがポリスの秩序維持に不可欠であると考えた。
問8	答え 3 克己復礼	儒教の祖である孔子は、内面的な愛や思いやりである「仁」と、それを社会的に表現する客観的な行動規範である「礼」を重視した。自らの私的な欲望を抑え、社会規範である「礼」に立ち返ることを「克己復礼」と呼び、これが「仁」の実践において極めて重要であると説いた。
問9	答え 4 告白	アウグスティヌスは、若き日の情欲や異端への迷いから回心に至るまでの精神的苦闘と、神の恩寵による救いを自伝『告白』の中で赤裸々に描き出した。この著作は、自己の内面を深く見つめるキリスト教的自己意識の先駆となった。
問10	答え 3 アウグスティヌス	プロティノスの新プラトン主義や使徒パウロの思想を吸収し、キリスト教神学を体系化した教父アウグスティヌスは、著書『告白』などで美と神への愛について論じた。彼は、地上の美しいものはすべて神の美の反映（作られた美）であるが、人間がその被造物の美自体に溺れてしまうことは、美の創造主である神への愛を忘れることにつながると警告した。